

二年前のど〜んとコミュニケーションで、尖閣諸島をめぐる日本と中国の関係について述べたことがあります。大國中国とけんかをしても勝てないということも書きました。今回は韓国の大統領が突然、竹島を訪問したり、石原東京都知事が「都が尖閣諸島を買います。」などと言いついたことにより、これらの問題に火がつけられました。

中国の暴徒により、日本人が怪我をしたり、日系企業が焼討ち、略奪されたりする事態となり、火をつけてしまった都知事はどのような気持ちでいるのでしょうか。長年、現地にとけこみ、現地の為に努力してきた日系人にとっては、とても残念なことであろうと思います。

それにしても、同一の領土問題に対する両国民の意思表示の仕方の違いには驚かされます。日本人はあくまで冷静である一方、中国の人々のあの激しさにはある種の戸惑いを覚えます。そもそも尖閣諸島に、日中関係やデパート、工場、車など、今回被害を受けた全てのもの以上の値打ちがあるのでしょうか。

今回のこの難問題を通して、わたしは、企業の海外進出というところに、少々疑問を持ちました。さまざまな理由はあるのでしようが、日本企業の海外移転が相次ぎ、中国へ、ベトナムへ、インドへと進出していきます。では誰がこの事実によって恩恵を受けているのでしょうか。最も大きな恩恵を受けるのは進出先の国であり、国民であると思います。仮に、外国の優良企業が鳥羽市に進出し、たくさんの方の正規社員を雇ってくれるというような状況を想像すれば、すぐに理解できると思います。

一方、企業に出でいかれた日本の国内では仕事がなくなり、収入が減って、外国で生産された安い商品を百円ショップで買うということになります。得をするのは大多数の国民ではなく、少数の企業経営者と株主だけではないでしょうか。

これからの日本の国は、日本人の技術や生産力を信じ、日本人の購買力に頼る時代にすべきではないでしょうか。やみくもに外国へ進出しても、今回のような反日の攻撃にあたり、相手国がすぐに追いついてきて、人件費も日本と変わらなくなると来てくるかもしれない。世界中から信頼される労働や技術によってできた商品を、日本のこれからの「売り」にしてゆくべきだと思います。

木田市長の
ど〜んと
真珠のように輝く
まちづくりのために
コミュニケーション
vol.82
国内の日本人を大事にしたい

受け継ぐのは進出先の国であり、国民であると思います。仮に、外国の優良企業が鳥羽市に進出し、たくさんの方の正規社員を雇ってくれるというような状況を想像すれば、すぐに理解できると思います。

東京
奮闘記!
vol.3
市では、今年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のPRを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。
企画財政課企画経営室 ☎1101

ふるさとに貢献したいと「伊勢志摩ふるさと交流会」や「伊勢志摩さいこう会」、「東京三重県人会」など、伊勢志摩や三重県出身の関東在住者で組織する団体に参加され、活動されているかたも多くいます。わたしも時間があれば、これらの団体の定例会に出席させていただいています。年齢も経験も大先輩から、観光面や経済面など今のわたしの業務に活かせる話や、ふるさとを懐かしむ話など、多くの話をお聞きし、勉強させていただいています。

さまざまな分野のかたとお会いし、人のネットワークが広がっていくことを楽しく感じています。このつながりを大切にし、鳥羽市にとっても、また自分にとっても財産となるような人間関係を築いていきたいと考えています。



伊勢志摩ふるさと交流会定例会の様子